Topic

COLUMN： 先生紹介 ▶ 井上　陽平（諸口教室）

皆様こんにちは。現在、主に諸口教室で教務指導をしております、井上陽平です。これまでは、非常勤講師として働いておりましたが、3月より正社員として勤めさせていただくことになりました。よろしくお願いします。

改めまして、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は小学生の頃にカイチに入塾し、そのまま中学部で受験勉強に励みました。おかげ様で、第一志望であった大手前高校に合格。その後、京都教育大学に進学し、カイチで働きながら、中学校の先生になるための勉強をしていました。ですが、この度心機一転して、カイチに入社することになりました。

今回私がお話ししたいのは、カイチの学習環境についてです。先程お話ししたように、私は高校受験、大学受験、教員採用試験と、人生の大きな試験を3回経験してきました。もちろん、どの試験にも全力で取り組みましたが、その中でも、カイチで勉強をした高校受験は、最も突き詰めて勉強できたと思っています。今から考えると、その秘密はカイチの学習環境にあったと気づかされました。それは、「独りで勉強せず、一人で勉強する」学習環境なのです。

「独りで勉強せず、一人で勉強する」学習環境とは何なのか。まず、「独りで勉強しない」環境とは、常に周りの子供達の成績を意識しながら勉強する環境です。現在の学校教育では、定期テストなどの詳しい点数や順位は、個人情報ということで非公開になっています。しかし、カイチは違います。私が生徒として通っていた当初から、診断テストや定期模擬テストの点数・順位は貼り出され、私が現在勤務している諸口教室では、普段の授業で実施している小テストや過去問の点数まで掲示している教科もあります。「受験は集団戦」と例えられるように、勉強は決して個人プレーではありません。子供同士が、時にライバルとして、時に励ましあう仲間として、互いを意識できる環境が作られていけば、クラス全体として、学年全体として、そして教室全体としての成績が上がっていくのです。

次に、「一人で勉強する」環境とは、目の前の課題を、自分の課題として一人で向き合える環境のことです。カイチでは、中学3年生になると、友達と一緒に行動せず、一人で塾に来て、一人で勉強を始める子が増えてきます。しかし、決して彼らは仲が悪く、殺伐とした雰囲気を作っているのではありません。休みの日には一緒に遊びに行く友達もたくさんいます。では、なぜ彼らは一緒に勉強しないのか。それは、彼らが「課題の克服は自分一人でするべきことだ」と知っているからです。普段から仲良くしている友達と一緒に勉強をするのは、もちろん楽しいことです。しかし、科目の得手不得手や、勉強のやり方は、子供達によってそれぞれ違います。だから、仲の良い友達として、相手に余計な干渉をするより、お互いを高め合う仲間として、それぞれが成長する一人の時間を尊重しようと思えるのです。

以上のような学習環境においては、一人の時間で成長した自分が、全体の中でどれだけ通用するのかを確かめることができます。そして、その中で成績を上げる工夫が自発的に生まれてきます。つまり、子供の自主性が育まれるのです。そこで重要なのが、先生の立ち位置。常に、放ったらかしにせず、構いすぎずの位置を維持せねばなりません。私を含め、カイチの生徒が楽しそうに、自ら勉強していく理由は、カイチの先生の絶妙な距離の取り方にあったのです。私は、カイチの先生の距離感覚を身につけ、何事も主体的に頑張れる子を育てられるようになっていきたいと思っています。まだまだ未熟者ではありますが、これからもよろしくお願いします。

マークのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE　マーク アイバン ソリアノ（トーキングキッズ）

Amazing Japan!

Japan is a very nice place. The daily routine and struggle is tough because of its fast-paced lifestyle but living in Japan is also exciting because of the colorful cities, breath taking countryside and polite people.

It has been more than one year now since I started working in Japan and I'm going to tell you about my Japanese experiences. When I first started working here, I had a culture shock. There are so many things that are different here from our country even though it is only 4 hours by plane. Japan mostly follows Eastern Asian influence while Philippines follows Western. In Japan, you meet and greet people by "bowing" to show respect but in our country, it is by hand shake only. Japanese people are also shy, private and very quiet especially to foreigners. So sometimes it can be difficult to approach them because they value their privacy. But I like it here because it's amazing here.

The thing that really amazes me here in Japan is the transportation. Japan has a good public transportation system. There are so many lines and very well-connected all over major parts of Japan. People use it daily and depend on it and its almost never late. For example, a person like me living in the city, getting a car here to go to work, supermarkets, banks, malls is not necessary because they have a train stations near those places. You can even go to other cities or neighboring prefectures by train. From Osaka, you can get to Kyoto or Nara in less than an hour and that is very efficient. Unlike in the Philippines, we have trains but are not really connected to other parts. We usually depend on our private transportation, meaning everyone uses their own cars for getting to places and that causes heavy congestion of traffic for hours even just going to nearby cities.

The Japanese transportation is what most amazes me here in Japan, and someday I hope I can go to other places in Japan that I've never been to by using their train system to relax and have a good time.

日本はとても良いところです。テンポの速い日本の生活スタイルになかなか馴染めず、毎日の決まった仕事や、努力すべきことが多くて大変です。しかし、日本のそれぞれの町の雰囲気が違ったり、地方に行くときれいな空気を吸って落ち着けたり、礼儀正しい日本の人々と接することで日本の生活を楽しむようになりました。

日本で働くようになって1年以上が経ちましたが、ここで私が経験したことをお話したいと思います。初めて日本で働くことになった日、カルチャーショックを受けました。私の国から飛行機でたった4時間ほどしか離れていないのに、私の国とは全然違うことがたくさんあります。フィリピンのライフスタイルは、アメリカの方の影響を受けていますが、日本は東アジアの方の影響があります。日本では、人と会ったときは、尊敬の意を込めてお辞儀をし、挨拶をします。私達の国では、握手だけです。日本人は用心深くもあり、プライベートを大事にし、特に外国人には内気です。彼らのプライバシーを侵害しないように接しなければと思うと、仲良くなるのには難しいと思うことがあります。しかし、やはり私はこの素晴らしい日本が好きです。

日本で特に驚かされたのは、しっかりとした公共の交通機関のシステムがあることです。日本の主要都市には、たくさんの路線があり乗り換えが非常に便利であること。人々は毎日のように利用し、頼りにしています。そして絶対に遅れない。例えば、私のように町に住んでいる人は、仕事やスーパー、銀行やモールに行くのに車を運転する必要がありません。他の町や県へも電車で行くことができます。大阪から京都や奈良へは効率よく1時間以内で行くことができます。フィリピンは違って、電車はありますが、路線は少なく乗り換えるところはあまりありません。私達はどこかへ行くとなると私的交通機関、つまり自家用車に頼るので、ちょっとそこまで行くのにも、何時間もの交通渋滞に見舞われてしまいます。

日本の交通機関の素晴らしさには本当に驚かされます。いつの日か、この素晴らしい交通機関を使って、他の場所へ訪れ、ゆっくりとした楽しいひと時を過ごしてみたいなぁと思っています。

カイチからのお知らせ

- ■2月10日(土)・17日(土)・24日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。新小4～新中3生で当塾に入会をご希望の方は、お電話でご予約ください。2月中ご入会の方は、入会金と年間教材費5,000円割引をさせて頂きます。
- ■2月10日(土)は私立高校入試です。皆さんの健闘を祈っています。
- ■2月11日(日)は珠算上級検定です。2月10日(土)は直前練習を行います。詳しくは担当の先生より連絡があります。
- ■3月12日(月)は大阪府公立高校一般入学者選抜日、合格発表は3月20日(火)です。受験生のみんなあと少し。最期の最期まで頑張ろう。
- ■3月12日(月)より新年度授業がスタートします。

発行／株式会社 開智総合学院　〒536-0004 大阪市城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI201　TEL.06-6939-0008

Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

February 2018 Vol. 66
毎月10日発行

【本　部】
城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467

生徒のみんな、そしてお母さん、英検講座お疲れ様でした。

高木 秀章（塾長）

今日は1月25日。昨日から日本列島を今年最大の寒波が襲っています。東京では最低気温が−4度。何と48年ぶりの大寒波だそうです。それに伴い、インフルエンザの勢いがすごい。学級閉鎖が続いているのは当然のこと、学年閉鎖が出ている学校も。特に受験生の皆さんは、このGROWINGが配られる頃は私立入試が終わり、合否が出始める頃。張り詰めていた気持ちが少し緩む時ですので、体調管理にはくれぐれも気をつけてください。

私が担当していた英検講座が、先週の日曜日の英検と共に終了しました。この講座は「3ヶ月で英検4・5級を取得する」というもので、本気で英検合格目指して勉強する子供達のみ来てくださいとお知らせを書いたところ、小1～小6まで13名の子供達が集まってくれました。

英語経験者の子供達も混ざっていましたが、その大半が初心者。最初はアルファベットのbとdを逆さに書く生徒もたくさんいました。授業では私が30分間英検に必要な文法内容をオリジナルのドリルで指導し、残り30分は学んだ文法事項を使って外国人の先生と話すことで、活きた知識を身に付けられるように工夫しました。また、この講座では、保護者の方も共に授業参加していただけるようにしました。

最初は、保護者の方が見ているということで、私達講師が固くなり、子供達もお母さんに甘えてしまい、集中力が途切れてしまうこともありましたが、講座が進み、お互いが授業の要領を掴むにつれ、子供・お母さん・私達講師の間で少しずつ団結した空気が生まれていきました。

特に今回、私が感心したのはお母さん達の姿勢です。最初はついつい、手取り足取り教えてしまう、場合によっては身の回りのことを全てしてしまうお母さんが多かったのですが、講座が進むにつれ、隣に座っても、口と手を出さず我慢して見守るようになっていかれました。また、英検講座のテキストは、英検取得のスピードを上げるためご家庭で指導できるよう作成されていますが、子供達を教える際も、ヒントを与えじっと待つというスタンスを取れるように変化されていきました。

実は、幼児や低学年の子供達を指導する際、最も重要なことが、子供達との距離感なのです。できるだけ口出しをしない。でも、関与しないのではなく、温かく見守る。この姿勢が子供達の主体性を引き出し自立へと導きます。時に、私が子供達を厳しく叱る場面もありましたが、それでも、お母さん方は、黙って子供達を見守られていました。

とても印象的だったのは、残念ながら英検受験は諦めましたが最後まで来てくれた最年少、小1の加藤君。お兄ちゃん、お姉ちゃん達に混じりながら、見よう見まねで授業に付いていく彼を、お母さんは心配しながら見ておられたと思います。周りの皆が要領をつかみテキストを進めていく中、最初はアルファベットを4線の中におさめるのに苦労し、時間をかけて大文字・小文字とその発音を覚えていきました。その後、テキストに進みますが、使っているテキストは将来の受験を見据えた、中1レベルのライティング。小学1年生の彼には、とてつもなく大変です。お母さんは、本人の答えを消しゴムで何回も消し、集中力が切れてしまう我が子を励ましながら粘り強く取り組まれていました。

最初は、お母さんもストレスであったと思いますが、次第に、できないことより、本人の努力、「こんな大変なことに取り組み続けている我が子の姿勢」を理解され、教え込まず、ヒントを与えて考えさせ、それを待つようになられました。そこから彼は激変しました。分からないところを聞くのではなく、調べ、間違えていても恐れず解答を書き、お母さんがヒントで促す。最後の方の授業では、お母さんはただ見守り、本人は私の文法指導から懸命に学び、分からなければ、文章を読み直し考えるようになりました。

このような指導で3ヶ月。冬休みからは、連日のように英検の過去問題に取組み、その結果をみんなで一喜一憂し、英検当日まで頑張りました。本人達の努力、それからお母さん達の献身的なサポートで、英検直前にはプレテストで80%以上の子供達が合格、ヘルプで指導に来てくれたマナロ先生も、子供達の成長に驚いていました。

「3ヶ月で英検に合格」を掲げた英検講座は、保護者の方の協力が、子供達にとって、いかに大きな力になるかを知る大切な機会となりました。

お母さんと共に学んでいる子供達を見て、大好きなお母さんが見ててくれる、お母さんの笑顔が見られることが、子供達の原動力であると改めて感じました。勉強は子供達にとって苦痛なことと思われるかも知れませんが、お母さんや、お父さんに見守られ学ぶことは、子供達にとってむしろ幸せな時間です。

私達の指導、特に低学年指導において、子供達、保護者、私達が協力し、指導効果を高めていける。そのような講座作りができないかを、もっと考えていきたいと思います。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート

連日の質問は彼らの成長の証「底抜けに明るい」彼らと最後まで頑張り抜きます。

熊谷　周作（今津教室）

こんにちは。中３生は入試のシーズン到来です。私立入試が２月10日（土）、公立の特別入学者選抜が２月20日（火）・21日（水）、一般者選抜は３月12日（月）にあります。一日一日が受験生にとっては、貴重な時間で、一瞬たりとも無駄にできません。今回は、そんな受験直前の今津受験生の今の様子や、彼らの成長の様子についてお伝えします。

各学年、診断テストや、模擬テストに向けて勉強を頑張っていますが、特に受験生達は入試に向け、毎日のように塾に来ては自習と質問を繰り返し追い込みの真っ最中。休み時間のたった5分でも質問に来たり、帰り際には作問依頼をするなど、入試に向けて必死に頑張っています。もちろん、質問は授業終了後も続き、どこかで打ち切らなければ終われませんので、本当に申し訳ないのですが追い立てるように帰宅させる。翌日は、またその子達の質問に答える。とにかく、その繰り返しです。でも、その中で彼らの質問の質は確実に変化してきています。

私は彼らが２年生の時に、今津教室にやってきましたが、最初は、「質問をする」、「学習法を身に付ける」など、学習の主体性を身に付ける以前に、毎回の宿題をする習慣がない生徒もいました。授業中に叱り、居残りで諭し、少しずつ改善させていきました。救いだったのは彼らの「底抜けの明るさ」です。私が厳しいことを言っても、話しかけてくれる。授業中も冗談を言うと冗談で返してくれる。そんな彼らの明るさに私自身も何度か助けられました。先日、高木塾長が今津に来られたときも、生徒達は初対面の高木先生

に「塾長―!」と寄っていき、なぜか握手を交わしていました。塾長も、「今津生すごいパワー。伸びているって感じする。」と若干圧倒され気味で話されていました。

そんな彼らも、時間の経過と共に、学習法を身に付け、それに伴い質問を自主的にできるようになり主体性を身に付けてきました。その結果、今津中3クラスは、定期テストのクラス平均点を数学や英語では20点以上、上回り（学年トップ層の生徒達もたくさんいます）、彼らが一番得意としている英語では、模擬試験の結果で、偏差値60以上18人中13名で、平均偏差値が60を超えました。カイチのトップが集まる文理講座でも他教室のトップ達と競える生徒達が出るようになり、素晴らしい教室になりました。

「勉強」と言う文字は「勉めて強いる」と書きます。最初は決して楽しいものではありません。

しかし、それを続けていく中で初めて、分からないことが分かる、点数として結果が出る、学習のコツを掴むなど、努力の成果が見え、勉強が主体性を帯びたもの、つまり「学習」になっていきます。私は今、底抜けに明るい彼らの質問に答えながら、彼らと「学習」ができているという充実感を得ています。

受験まであと僅か。彼らの努力が、必ず合格という実を結ぶよう共に最後まで頑張り抜きたいと思います。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

入試直前!最高レベルの問題と環境で志望校合格へ。今年の文理学科講座

高木　直也（諸口教室）

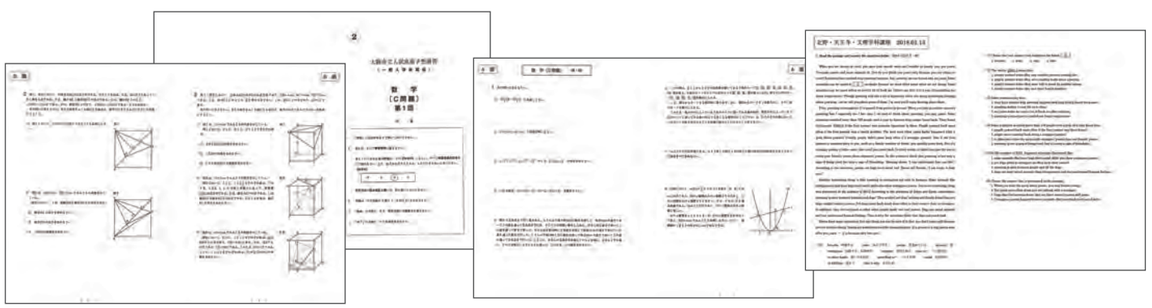
公立入試も来月に迫り、「文理学科講座」もいよいよ大詰めです。この「文理学科講座」とは各教室のトップの生徒達が集まり凌ぎを削る、まさに「開智の頂点を決める講座」といっても過言ではありません。毎年、この講座から多くのトップ10校合格者を輩出しています。来年受験の新中学3年生でトップ10校を目指す生徒達はまず、この講座に参加できるかがカギになります。来年度受験の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

今年の文理学科講座は五科目難問に挑戦し、解説を受け実力錬成を図るものでしたが、そんな指導の中でも特に燃えていたのが今年文理学科講座の指導チームに加入した今福の若きエース、熊谷真宏先生。他の科目の先生達が問題を厳選するにとどまるなか、熊谷先生だけは、難関私立の長文を厳選し、大阪の公立入試C問題と同形式にアレンジ。毎回がオリジナル模試という離れ業をやってのけました。毎回授業後に「この問題をどれだけ解けるかなあ」と不敵な笑みを浮かべ採点していた姿が特に印象的でした。

また、理科を担当した関目の小幡先生は、授業後自分で復習ができるように解説をオリジナルで作成するなど、難問に挑戦する生徒達にとって少しでも助けになるようにという工夫を凝らしていました。

そしてむかえた2月3日に始まった最終タームは「文理学科合格判定模試」と銘打ち、本番C問題とそっくり模試を実施しています。試験後各教室の先生達が採点を行い、これまでの受験者のデータを基に合否判定を出し、実際に合格発表を掲示にて行うという、本番を想定した模試を行っています。合格判定が出て喜ぶ生徒はもちろん、合格判定は出なくともあわせて掲示される開示された自分の得点を見て、「いける！！」とモチベーションをあげた生徒もいるようです。実際各教室で指導に入っている先生達もこの結果に一喜一憂。指導にも一層熱がこもります。そして、目に付いたのは、当事者である受験生達よりもその次の世代である中学2年生達が食い入るように合格発表を見ていたことです。「〇〇先輩頑張ってるなあ」「頑張ったら自分も受けられるかなあ」など、今年の春から始まる自分達の受験に意識を高めていたのが印象的でした。

今年度の文理学科講座で思うことは、例年以上に積極的に講座に参加してくれていることです。ただ受けに来るだけではなくて、講座以外の単元について質問してきたり、進路の相談があったりと、生徒とコミュニケーションをとる機会が多いように感じます。生徒達から例年以上にこの講座を活用し、志望校合格に結び付けてやろうという意欲も感じます。そういった思いに応えられるように先生達も頑張っていきます。

6年目を迎えた文理学科講座も年々進化を遂げています。その進化の原動力は、カイチに中学最後まで通ってくれた生徒達が最高の結果で春を迎えてほしいということです。三年間の頑張りを残り少しの期間にぶつけてください。先生達も持てる力全てをぶつけて指導していきますので、最後まで全力で頑張っていきましょう。

文理学科講座のオリジナル模試　先生達が毎回頑張って作っています!